

国立大学図書館の現状と課題

東京大学附属図書館事務部長

木 下 聡

1. 国立大学図書館の現状 ～学術情報基盤実態調査から見えてくる課題～

- ・ 外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保 <蔵書>
- ・ 学生の自学自習のための支援 <場>
- ・ 専門性を有する人材の確保、現職職員の育成、キャリア・パスの確保 <人材>

2. 国立大学図書館協会のビジョンと活動

- ・ 国立大学図書館協会の概要
- ・ 国立大学図書館協会ビジョン 2025（2021年6月）と委員会の活動
 - ・ 3つの重点領域： 知の共有、知の創出、知の媒介
- ・ 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
 - ・ 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）
 - ・ これからの学術情報システム構築検討委員会
 - ・ オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

3. 国立大学図書館の使命 ～大学・国の方針との関係を中心に～

- ・ 教育基本法、学校教育法：大学の機能
- ・ 国立大学法人法：中期目標と中期計画
 - ・ 第3期中期目標・中期計画の具体例：図書館は書き込まれているか
 - ・ 大学のビジョン、戦略、アクションプラン
- ・ 国の政策動向
 - ・ 文部科学省：中央教育審議会、科学技術・学術審議会 情報委員会
 - ・ 内閣府：総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
- ・ 文部科学省と大学図書館

4. 電子ジャーナルをめぐる問題 <蔵書>の課題

- ・ 国大図協プレスリリース（2018年1月）
- ・ 価格上昇の推移、値上がり要因、ビッグディール
- ・ 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動
- ・ 圧迫される図書購入費
- ・ 海外動向：OA出版、SCOAP³、OA2020、Projekt DEAL、PlanS
- ・ OA2020：購読モデルからOA出版モデルへの移行

- ・ JUSTICE の OA2020 ロードマップ公表 (2019 年 3 月 5 日)
- ・ 文部科学省：科学技術・学術審議会の審議のまとめ (2014 年 8 月、2021 年 2 月)
- ・ 日本学術会議：学術フォーラム、提言 (2020 年 9 月)

5. 学生の自学自習のための支援 <場>の課題

- ・ アクティブ・ラーニング・スペース (ラーニング・コモンズ) の整備状況
- ・ 「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について (審議まとめ)」
(2013 年 8 月)

※東京大学の事例から

- ・ 総合図書館の新図書館計画
- ・ 別館ライブラリープラザをアクティブ・ラーニング空間としてオープン
(2018 年 10 月)

6. オープンサイエンス 新たな課題

- ・ 内閣府「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」
(2015 年 3 月)：オープンアクセスからオープンサイエンスへ
- ・ 「学術情報のオープン化の推進について (審議まとめ)」(2016 年 2 月)
- ・ 大学図書館とオープンサイエンス
 - ・ 国大図協の動き：プレスリリース (2019 年 3 月)、総会・研究集会 (2019 年 6 月)、オープンアクセス委員会の諸活動
 - ・ 国立情報学研究所によるオープンサイエンス研究データ基盤の整備

※東京大学の事例から

- ・ 機関リポジトリを研究データ公開基盤として活用 (計画中)
- ・ 学術資産等アーカイブズ事業

7. 人材の確保と育成 <人材>の課題

- ・ 採用試験、キャリア・パスの現状
- ・ 職員数、採用数の推移：次第に規模縮小、業務委託の増加
- ・ 国大図協「図書館職員の人事政策課題について (提言)」(2012 年 3 月)
- ・ 新しい人材の育成：図書館の「外部」を知る・経験する必要

8. おわりに